

**コンプライアンスを基盤に
ステークホルダーの要請に応え
持続可能な社会の実現を目指します**

代表取締役社長

福本 勝司



信頼回復に向けた取り組みと使命の遂行

2019年7月、公正取引委員会から2015年1月以前のアスファルト合材販売価格決定に関し、独占禁止法に基づく排除措置命令等を受け、皆さまにご心配・ご迷惑をおかけしたことを心から深くお詫び申し上げます。

2016年以降、2件の営業停止処分を受けるなど、相次ぐ一連の事態を重く受け止め、当社は中期経営計画(2017年度～2021年度)にコンプライアンスの徹底を盛り込みました。親会社の大林組と連携した研修や法令違反の未然防止を目的とした顧問弁護士によるヒアリングなど、コンプライアンス意識定着のための施策を繰り返し講じています。当社は強い覚悟をもって再発防止に取り組むと同時に、道路建設という本業で使命を果たしていきます。

その使命の1つに、近年多発・激甚化する自然災害によって損傷した道路の復旧があります。道路はわれわれの生活を維持するために欠かせない交通インフラの要であり、迅速かつ早期の復旧に貢献することが、道路建設会社である当社にとっての社会的な責務であると認識しています。同時にこれは、全国にある協力会社の存在があってこそ実現できるのであり、これからも一丸となって安全・安心な道路の建設に全力を尽くします。

社会から必要とされる企業としての責任

社会インフラ整備という公共性の高い事業を担う当社は、これまでもコンプライアンスを基盤としたCSR経営を行ってきましたが、その取り組みを今まで以上に強化すべく2019年10月、「CSR委員会」を発足させました。企業として社会的責任を果たすうえで重要な活動を統括し、積極的に推進していきます。当社を取り巻くステークホルダーの要請に対して誠意ある行動をとり、社会から信頼され、必要とされる企業であり続けるために不断の努力を重ねていきます。

道路建設は新設から維持・更新工事が主流となっており、従来の工事とは異なる技術が求められています。当社はこうした流れやニーズを的確にとらえ、常に高機能で付加価値の高い製品・サービスを提供し続けます。

また、私自身が陣頭指揮を執り、新たな付加価値の

創出や環境負荷低減のため、積極的に研究開発のための投資を行っています。2018年10月より東京大学と共同で行っている4Dモデルを活用した安全管理手法の研究は、結果をオープンソースとして公開することで建設業界全体の安全性向上の実現に寄与することを目指しています。自社のみならず、政府・学術機関・他企業との共同研究による技術開発を通じて事業環境の変化に柔軟に対応し、より良い社会の実現に向け、たゆまぬ研さんを積み重ねていきます。

誰もが生き生きと働ける企業を目指して

社会的ニーズの解決に資する技術や新しい価値を生み出す源泉となるのは、1,000名を超える当社従業員です。それぞれが個性を發揮し、生き生きと働ける環境の整備に注力しています。

社内ではダイバーシティの推進やワーク・ライフ・バランス向上を目的とした制度を整備し、新たな製品・サービスを創出する土台がより強固となりました。同時に「働き方改革推進プロジェクト・チーム」を中心に業務効率化を推進しており、工事日報システムやオフィスカーの導入など、成果を上げているものも増えはじめています。これに加えて、現場における当社および協力会社従業員の安全確保にも積極的に取り組んでいます。

また、当社事業に協力会社の存在は欠かせないという考えから、2019年度より私自身が全国の協力会社と直接対話する場を設けています。

今後も自社のみならず、協力会社の従業員も含めて「働き方改革」と安全・安心で活力あふれる職場の実現を目指します。

持続可能な社会を実現する企業であるために

当社は創業以来約90年、ステークホルダーの期待に応え、時代を先取りした技術で豊かな生活環境を創造することを念頭に事業を進めてきました。われわれの事業は社会インフラの整備と同時に、自然環境とも深い関わりがあります。当社の事業は国際社会が共通のゴールとして掲げるSDGs(持続可能な開発目標)に関連しています。

全従業員・協力会社が一丸となり、安全・安心で持続可能な社会の実現に向けて貢献していきます。